

短期語学研修に参加して

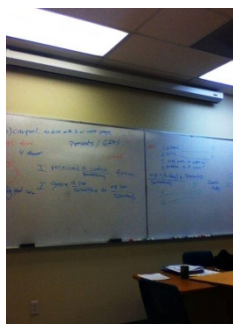
経済学部 2 年 安藤侑晟

9 月 4 日から 24 日の 3 週間、アメリカのサンディエゴ州立大学に語学留学に行ってきた。大学では、ALI (American Language Institute) という英語を学ぶための機関に所属し、授業を受けました。授業はもちろん英語で行われ、午前中はグラマー・リーディング・ライティング・リスニングの内 2 つ、午後はオーラルコミュニケーションの授業でした。

私が授業を受けて一番感じたことは、先生が生徒の発言を大切にしているなということです。生徒は



手もあげずに、先生が話している最中でも質問・発言をしていました。答えを先に言ってしまう生徒もいました。どの授業も多くて 15 人程度だったので、先生は生徒の発言にすぐ気がつきます。ですが、いやな顔などせず、丁寧に質問に答え、



正解なら「Good」と反応します。私は自分でも引っ込み思案だと思う方で、初めはどんどん発言する環境に戸惑ってしまいました。しかし、いざ発言してみると、「今日は発言したわね！素晴らしいわよ」とほめられてしまいました。先生曰く、アメリカの授業では、静かな教室という方が不思議で、おかしな空間らしいのです(私は一度、発言なしということで欠席扱いにされました！)。それから積極的に発言するようになり、それ自体が自分の語学力を向上させているのだと感じるようになりました。

また、英語で英語の授業をするので当たり前かもしれませんが、わからない単語の意味は、やはり英語で説明されます。英英辞典を使ってるような感じです。自分のボキャブラリーが増えるのを感じました。名詞や形容詞といった品詞にも授業では特に注目し解説してくれました。

「発言や少人数は恥ずかしくて無理かもしれない」と思う人もいますが、授業の空気はとても明るく、

ペアやグループを作って問題を解くことが多いので、すぐに友達もできます。基本はやはり、「英語を使うこと、話すこと」だと感じました。3 週間はとても短く、しかしとても濃いものでした。



アメリカ短期留学の感想

経済学部 1 年 安部聖史

今回 3 週間という短い間ではありましたが、アメリカカリフォルニア州サンディエゴにある San Diego State University で勉強してきました。僕たちはその校内にある留学生を受け入れる施設、AMERICAN LANGUAGE INSUTITUTE (通称 ALI) で授業を受けました。

当たり前ですが授業はオールイングリッシュで、とても新鮮なものでした。たとえばグラマーの授業で現在完了形の勉強をしたのですが、全て英語で説明されるので理解するのに必死でした。しかし同時に、理解できた時の達成感はとても大きかったです。

午後はオーラルコミュニケーションの授業で、とにかく英語で会話をたくさんしました。もしかしたらこの時間が一番楽しかったかもしれません。他の日本の大学の人と話したり、韓国や台湾やサウジアラビアの生徒と話して仲良くなったり、ものすごく友達が増えて、その国の色んなことを知って、本当に有意義な時間でした。

平日はしっかり授業を受けますが、もちろん勉強ばかりという訳ではありませんでした。学校が終われば、また土日はトロリー(アメリカの電車)に乗り、いろんなところを散策しました。サンディエゴ市内を歩いたり、バスに乗ってディズニーランドに行ったり、友達のホームステイ先でパーティをしたり、とにかくフル回転で動き回りました。



僕はこの留学プログラムに参加して、本当に本当によかった、正解だったと感じています。一緒に参加したメンバーに恵まれたというのもあるのかもしれませんが、本当に楽しく、濃い、色んな物を得ることのできた時間でした。この経験によって留学願望がより一層強くなり、同時に英語という言葉が本当に世界を繋ぐことができるということを、様々な国の人と会話することで身をもって実感しました。もっと英会話を練習して、また海外に留学できるようになりたいと強く思いました。



最後に、この文を読んで、この経済学部留学プログラムを考えているひとの手助けになればいいなと思います。



短期語学研修に参加して

経済学部 2 年 吉田愛理

私は、大学 2 年の夏休み、アメリカのサンディエゴ州立大学で行われる、短期語学研修に参加しました。3 週間という短い期間でしたが、語学はもちろん、他にもたくさんのことを学ぶことができました。日本と同じように、アメリカでも月曜から金曜まで大学に通い、文法、リーディング、スピーキング、発音などの授業を受けました。授業は全て英語で行われるため、始めは、いま授業で何をしているかをただ聞き取ることに精一杯でした。しかし、段々と英語での授業に慣れていき、最後には授業で発言できるようになっていました。3 週間という短い期間で、何か得られるのだろうか、と最初は不安もありましたが、少しではあ

るけれど、リスニング力やスピーキング力がついたらと実感できました。午後にある、オーラルコミュニケーションの授業では、ブラジルや韓国、中国などのいろいろな国の人と英語で会話する機会を与えられました。同じ英語でも、国によって発音が違ったり、なまりがあったりして、聞き取れないこともありましたが、ジェスチャーなどでコミュニケーションをとることができました。貴重な体験をすることができたと思います。

また、今回ホームステイをしていたので、家では毎日ホームステイ先の家族と過ごしました。毎日おいしいご飯を作ってくれたり、帰りが遅くなったときは迎えにきてくれたりなど、とてもよくしてもらいました。日常生活を共にすることで、文化の違いや言語の壁などの障害はありましたが、英語が下手な私が言おうとしていることを、真剣に聞いて、理解して、いつも助けてくれました。ホームステイ先に恵まれていたな、と思います。

休日には、同じプログラムで短期留学に参加していた、大分大学の 9 人の友達とショッピングに行ったり、動物園に行ったり、泊りがけでロサンゼルスやハリウッドに行きました。本場のディズニーランドにも行き、思いっきり休日を満喫することができました。

大分大学の 9 人の仲間は、この旅でとても仲良くなり、日本に帰ってきても交流を続けています。語学研修だけでなく、友達との絆を深めることもできたこの短期留学は私にとってかけがえのないものになりました。この経験をいろんな形で今後に生かしていこうと思います。



サンディエゴでの 3 週間

経済学部 2 年 三浦康太

私は 2011 年の 9 月にアメリカのサンディエゴ州立大学に 3 週間の短期語学留学をしました。アメリカの大学では全て英語で講義や説明が行われました。講義内容はそんなに難易度は高くなかったように思います。しかし全て英語で行われるためとても新鮮に感じました。午前中の講義は文法やリスニング等がメインで、どちらかと言えば日本でもよく行われている講義形式に近いものだったと

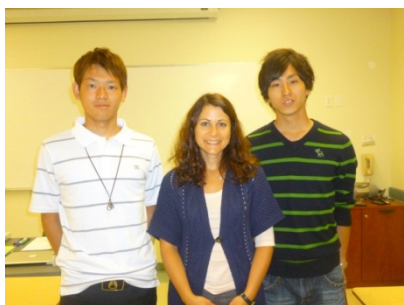


思います。昼からの講義はオーラル・コミュニケーションがメインの授業でペアやグループ等を作り英語を使ってゲームや作

業を行いました。個人的には昼からの講義の方が私自身、積極的に参加することができて、英語を使って話すことができたので楽しかったです。昼食は学食や大学付近の店を利用しました。学食はサンドウィッチやピザ等、アメリカらしい食事たくさんありましたが、日本食等のアジア料理もあったことに驚きました。

また、アメリカに滞在中はホームステイも体験しました。中学 3 年生の夏休みにオーストラリアでホームステイを体験しましたが、中学 3 年のときに比べると流暢な英語でホストファミリーと会話をすることができたので、自分の成長を感じました。サンディエゴでは 21 歳から飲酒が合法なので、私はほぼ毎日ホストファミリーと一緒に酒を飲みました。酒が入ると話も円滑に進み、国際的な政治の話や国交問題などについてもホストファミリーと話をしました。

一番印象に残った会話が、日本に帰国する前夜に第二次世界大戦について話をしたことです。アメリカ人と英語を使って第二次世界



大戦について話をしたことは、とても貴重な経験だと思います。

アメリカでは講義が 15 時 30 分に終わるので放課後はショッピングモールに行っ



たり皆でサッカーをしたりしました。週末は動物園や水族館、そして一番大きなイベントは一泊二日のディズニーランド・LA ツアーでした。学びも遊びも充実し、他国の友人や日本の他大学の友人も多く作ることができ、とても素晴らしい留学でした。



夏季語学研修レポート

経済学部 2 年 草野安由美

今回 9 月 4 日から 23 日の間、アメリカでの語学研修に参加しました。サンディエゴ州立大学の付属の語学学校で月曜から金曜まで、午前中 2 コマ、午後 1 コマ授業を受けました。学習環境も素晴らしく、充実した 3 週間を過ごすことが出来ました。語学学校は日本人をはじめ、アジアからの学生が大多数を占めていましたがブラジルやサウジアラビアからの留学生もいました。

授業のクラスは初日に受けたテストの成績で振り分けられます。長期で勉強をしに来ている学生と同じクラスになるので、はじめはついていけないのか不安でした。午前中はライティングやリスニングの授業を受け、午後はオーラルの授業を受けます。どの授業でもみんな積極的に発言していて、私や同じ日に入校した学生は圧倒され無口でしたが、少しずつ慣れることができました。

今回はホームステイ先で 3 週間過ごしました。ホストファミリーは英語しか話せないのが最初はどうもコミュニケーションがとれず、2、3 日は無口でした。しかしせっかく来ているのに何も話さないのは勿体無いと開き直り、つたな

いながらも話す努力をしました。間違っているとも理解してくれ、優しく教えてくれました。ホームステイ先には3人子どもがいたので、遊びながらも英語の練習になりました。通学が少し不便だったことを除けば、良いホストファミリーに恵まれたなと思いました。



サンディエゴは人がみんな優しく治安も良いほうで、想像していたアメリカとはずいぶんちがっていました。たった3週間しか過ごせなかったのが残念です。いろんな国の友達ができただけでもとても良かったです。今回の経験は私にとって大きな影響をあたえてくれました。参加して本当に良かったと思うし、一緒に行った仲間にも恵まれていたとおもいます。今後こういった形かは分かりませんが、いつか留学したいなと、あらためて思います。



アメリカ滞在記

経済学部 2 年 大橋苑子

長時間のフライトを終え、私たちはサンディエゴに降り立った。あまり雨の降らない地域だが、その日は珍しく雨が降っていた。温かくホストファミリーが迎えてくれて、私たちの3週間の留学は始まった。アメリカに行くのも、3週間親元を離れるのも初めてだった私は、楽しい気持ちもありながら不安を感じていた。留学に行く人は英語力に長けていると思われがちだが、私は高校までの英語がそこそこできるくらいのレベルだ。この留学で英語力が高まればいいな、という程度だったのだ。ホストファミリーとの会話や授業を受けて、もう少し英語の勉強をしてから行けばよかったと後悔した。サンディエゴ大学での授業は、

プレテストの結果でクラス分けされた上で行われた。各クラスにいる日本人は私たち分大生だけでなく、熊大生、青大生、京産大生など日本人がざっと6割を占めており、あちこちで日本語が飛び交っていた。この状況は英語力を伸ばしたい人には物足りないと思うかもしれないが、普段生活していたら絶対に知り合わない人たちと仲良くなれる凄いチャンスだと思う。私は今でも Facebook という SNS で交流している。振り返ってみるとサンディエゴでの出会いは一期一会の大切なものとなった。授業内容は日本の形式とは違い、先生と生徒たちがみんなで口々に話し合い進めていくものだった。授業中に発言をしないことはいらないも同然だ、という先生もあり、みんなが積極的に授業に参加する姿勢が印象に残っている。また、金曜日には好きな授業を選択して受ける般教のような時間もあった。私はダンスの授業をとったが、思いのほか本格的で B 系の超かっこいい黒人の先生が教えてくれた。滞在中に起こった大停電の影響で1回しか受けられなかったことが心残りである。ぜひダンスの授業は受けてほしいと思う。

そして、3週間という短い留学期間を充実して過ごすためには放課後と休日の過ごし方が重要である。私たちは毎日放課後になるとどこかへ出かけ、休日にはLAのディズニーランドやハリウッド、サンディエゴ動物園などさまざまな場所へ出かけた。そのおかげでアメリカの魅力を知ることができ、現地の人と仲良くなることもできた。もちろん危険な場所もあるので、ホストファミリーに事前に聞いておいてよかったと思った。私たちが留学に行ったとき、円高・ドル安で1ドル＝約80円と破格のレートだった。円高の恩恵を存分に受けることができた。しかし、日々の昼食代や旅費でけっこうお金がかかるのでクレジットカードがあると便利である。



帰国の日はあっという間にやって来た。ホストファミリーみんなとハグをして、いたずらっこだった妹 Fairly からくまのぬいぐるみをもらった時はちょっぴり寂しくなった。サンディエゴはメキシカン料理がおいしくて、空気がカラッと気持ち良く、きれいなビーチがいくつもあって、なにより人がとても優しい温かい場所だった。来た時と同じく雨に見送られながら、そんなことを思った。私の留学した3週間はざっとこのような感じで終了したのだが、またサンディエゴを訪れる機会があることを願っている。



短期語学研修を終えて

経済学部 2 年 田中良彦

今回の語学研修に参加して、非常に貴重な体験ができた。違う文化の中で生活するにあたって、最初はやはり不安が多かったものの、後半になり、アメリカでの生活にも慣れ始めると、まだこの場で生活したい、学びたいという思いが強まっていった。

この語学研修のなかでの不安要素の大部分を占めていたものが、やはり、言葉の違いであった。朝から晩まで英語に囲まれる生活で、相手の言うことが聞き取れなかったり、自分の言いたいことをうまく表現できなかった時など、ストレスがたまった。しかし、ホームステイ先、クラスメイト、ルームメイトと会話していくなかで、コミュニケーションが取り合えると、それが勉強意欲にもつながった。だから私はルームメイト、ホストマザーなどとできる限り会話することを心がけた。



彼らはアメリカにおける私の家族であり、先生でもあった。アメリカの文化、言葉の違いなどさまざまなことを教えてくれた。私も同じく、彼らに日本の文化などを伝えた。また、授業の中でも、他の国からの留学生も多く、お互いに母国語ではない英語で授業を受け、ディスカッションすることはとても新鮮な体験だった。振り返ってみると、授業のみならず、日常生活そのものもいい勉強になっていた。

また、この研修中に国民性の違いも実感することができた。1週間目のある日、サンディエゴ市内で大規模な停電が発生した。日本人の場合はこのようなときは家で静かに過ごすことが一般的だと思うが、アメリカの場合は、真っ暗な近所を散歩したり、隣人などで集まって庭でパーティーを開いている光景が見られた。ちなみに私はホストファミリーとその家族とともにドライブに出かけた。停電は予期せぬハプニングであったが、貴重な経験ができた。

最後に、この研修に参加して本当にいい経験ができた。語学のみならず、現地の人や留学生などからいろいろな考え方を知ることができたし、異文化での生活を楽しむことができた。



海外短期留学語学研修を経て

経済学部 1 年 梅野友貴奈

サンディエゴ州立大学で過ごした 3 週間は私にとってとてもよい経験になりました。たくさんの友達もでき、有意義な時間をすごせたと思います。

私が留学を決めたのは、この大学の入学式のときでした。私は大分大学経済学部の留学制度にとっても興味があったため、この機会を利用して一度留学を経験してみようと思いました。ビザ取得は少し大変で、そのこともよい経験になったと思います。

少しの不安と大きな期待を胸に抱き、私はサンディエゴ行きの飛行機に乗り込みました。大学はどういうところな

のろうか、ホームステイ先の家族はどういう人たちなのろうか。たくさんの方が脳裡をよぎりました。

しかし、私の不安はサンディエゴについて 3 日で消え去りました。ホームステイ先の家族はとても優しく、家にあるプールで泳いだり、一緒にテレビを見たり、ショッピングをしたり、2 人の子供たちともとても仲良くなりました。ホームステイで 3 週間すごすことができたことは、英語を学ぶにはとてもよかったと思います。言いたいことを英語ですぐに表現すること、そして、ネイティブの英語を聞き取ることの訓練ができました。私が帰国するときに、ホームステイ先の家族から、来た時よりも英語が上手くなったよ、と言われたことはとても嬉しかったです。



サンディエゴ州立大学での授業も私にとってよい成長の機会となりました。初めに受けたプレースメントテストでレベルごとのクラスに分けられて、リーディング、リスニング、オーラルコミュニケーションの三種類の授業を受けました。どの授業も、ペアワークが多く、自分の意見についてペアで話し合いをしたり、わからないところをお互いで教えあったりしました。私が一番興味をもったのは、授業形態です。先生たちも積極的に生徒に話しかけ、生徒も先生とのコミュニケーションを望んでいました。私はこの留学で、英語だけでなく、授業の本来の授業の受け方をも学ぶことができたと思います。

わたしはこの語学研修に参加できて、とてもよかったと思っています。この機会を胸に今後の大学生活を送っていきたいと思います。



San Diego 短期語学研に参加して

経済学部 1 年 竹本朱里

私は今回の短期語学研修で、日本で生活しているだけでは絶対に経験できないような貴重な体験をすることができた。アメリカでの 3 週間の生活は日本と異なりすぎていて、驚くことばかりだったけど、私は最大限に楽しむことができた。

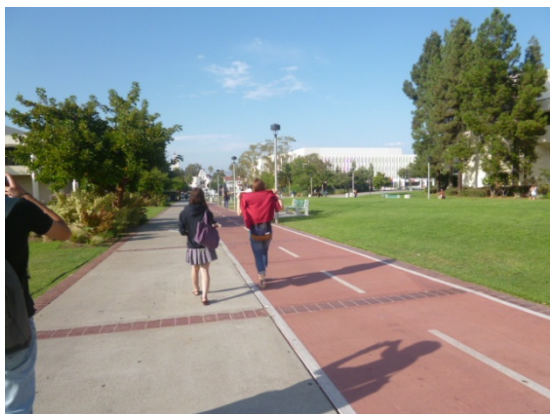
私は今回、サンディエゴ州立大学の語学学校(ALI)で毎日英語を勉強した。内容は Writing, Grammar, Reading, Listening, Oral Communication などである。やはり場所がアメリカなので、授業は全て英語で行われるわけであり、最初は本当にとまどい、ついていけないのではないかと心配した。しかし、1 日中英語を聞いていると自然と耳が慣れ、完璧ではないが、先生の言うことを理解できるようになった。そしてこの語学学校にはアメリカ以外の国の人々もたくさんおり、英語でコミュニケーションをとることによって友達になることができた。日本以外の国の人々に、日本のことを英語で紹介することはとても難しいことではあったが、自分のつたない英語であっても相手に言いたいことが伝わったときは本当に嬉しく、自信にもつながったと思う。

また、学校の放課後や休みの日は、大分大学から一緒に留学したメンバーで買い物へ行ったり、観光してまわったりした。そこでは、アメリカに住む人々の陽気でオープンな優しさを感じる場面が多々あった。日本人は基本的

2011 年度サンディエゴ州立大学 ALI 夏季語学研修 体験記

にせっかちであるイメージがあるが、アメリカ人はみな正反対であった。

私はこの短期語学研修に行くまでは、ただ単に海外へ行ってみたいという軽い気持ちであったが、実際に外国へ行って、アメリカという自由な国で生活してみることによって、自分の世界観が大きく広がったと思う。高校生の時から、大学生のうちに1度は留学してみたいと考えていたが、日本と違った授業のスタイルや、交通マナーにも触れて、アメリカにますます興味を持ち、また、他の国のことについても知りたいと強く思った。今回の留学で、海外のことをインターネットなどでたくさん調べて学習するより、実際に1度行ってみるほうが 100 倍良いと感じたので、これから勉強を頑張って必ず留学しようと思う。



※ 記載の学年はすべて参加当時(2011 年度)のものです。